

令和4年度 伊勢原養護学校 不祥事ゼロプログラム行動計画(最終検証)

県立伊勢原養護学校

	項目	目標	実施結果と目標の達成状況
1	法令遵守意識の向上【必須】	・公務外非行の防止徹底 ・円滑なコミュニケーションの実施	定期的に朝の打合せ、職員会議後の職員研修会で、職員行動指針等の周知・徹底や、法令遵守意識の向上を図った。また、教育長通知や記者発表資料等を活用し、具体的事例を通して、スピード感をもって教職員の意識啓発に努めた。
2	職場のハラスメント(パワハラ・セクハラ・マタハラ等)の防止【必須】	・パワハラ、セクハラ、マタハラをはじめとするハラスメントの未然防止	不祥事防止啓発資料による自己チェックを実施し、わいせつ・セクハラに関する意識向上と注意喚起を行った。また、面談の機会等を通して、学部・学年の様子を確認を行った。日ごろから、常に相手の気持ちを考え、人権意識を持ち、教職員同士コミュニケーションを大切にすることで、ハラスメントの未然防止に取り組んだ。
3	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止【必須】	・人権侵害行為の未然防止 ・適切な指導の徹底	新転任者対象DVD視聴の研修や全職員対象の校内不祥事防止研修会を通して、児童・生徒等に対するわいせつ・セクハラ行為の防止に向けて、複数対応や密室化防止等、より教職員の意識を高める機会となった。面談を通して、子どもの人権を尊重した適切な指導支援の徹底について、改めて周知した。
4	体罰、不適切な指導の防止【必須】	・児童生徒の人権を尊重した指導の実施 ・児童生徒の実態を的確に捉えた上で、合理的配慮、適切な指導の実施	朝の打合せ、職員会議等で人権に配慮した指導について、管理職から適宜注意喚起を行った。特別支援教育における教員の専門性や指導力の向上を図るとともに、校内共通のアセスメントを活用することで児童・生徒の状態を的確にとらえ、より適切な指導実践に行うことができた。
5	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止 個人情報等の管理、セキュリティ意識の徹底【必須】	・個別教育計画や進路関係資料の作成・取扱を適切に行う。 ・個人情報に関する事故防止の徹底。	個別教育計画や進路関係資料作成・管理方法について、学部・校務グループ等で確認し、教職員の意識を高め、記載の誤りがないよう複数の職員で点検して作成することができた。 個人情報の紛失・誤廃棄・誤配付等がないようにダブルチェックを徹底した。ヒヤリハット事案に対しては、その都度なぜ発生したのかを考え、改善に取り組んだ。気づいた点は、学部内で共有し、再発を防止した。
6	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	・酒気帯び運転および飲酒運転防止、交通事故防止、交通法規遵守	不祥事防止啓発資料や自己チェックの実施により安全運転への意識向上を図った。不祥事防止研修会では、具体的な事例や実際の交通法規についてクイズを行うなど、教職員がより自分事と考える機会となり、意識啓発となった。
7	会計事務等の適正執行	・公費及び私費会計の適正な執行・管理 ・備品等の適正な管理	私費会計に関する不祥事防止研修会を実施した。私費執行手順を全職員で確認するとともに、手順に則した執行を徹底することができた。本校の私費会計の手引きの見直しを行い、より分かりやすい表現となるようマニュアルを修正した。備品照合と学期ごとの点検の実施、情報機器すべての機器について毎月末の棚卸し及び管理職確認を徹底した。

令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題(学校長意見)

神奈川県職員行動指針及び神奈川県効率学校教職員の倫理に関する指針に基づき、教育公務員としての自覚を持つことや立場を考えて行動すること、常に確認のコミュニケーションをとり同僚性を高めて不祥事の未然防止へ主体的な取り組みとなるよう適宜啓発を図ってきた。特にわいせつ・セクハラに関しては、当事者意識を醸成すると同時に人権意識を高めることや教職員間の同僚性の醸成についても考えた研修内容となるよう取り組んだ。研修後も面談を通して、不祥事が起こることによる周囲への影響の大きさや重大さについて振り返る機会となり、規範意識の向上につながった。
次年度は、ヒヤリハット事例を活用したり、緊急時対応訓練で役割分担を工夫したりして、教職員が自分事と捉えて主体的に取り組み、事故不祥事防止意識の向上を図っていききたい。